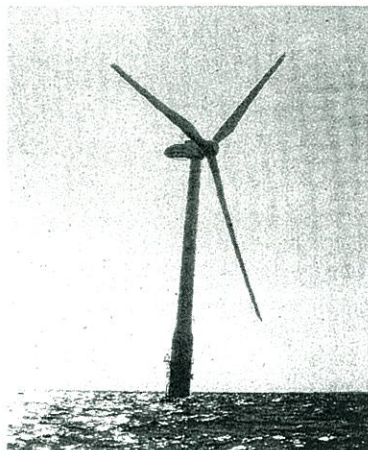


洋上風車 3漁協が同意

五島沖で戸田建設が計画

長崎県五島沖で戸田建設が計画している浮体式洋上風車群について、五島ふくえなど、関係する地元3漁協が同意した。五島市は漁協の同意を受け、戸田建設とともに漁業振興のための基金を設立、漁業者の経費負担の軽減や藻場の再生などに活用する。五島の漁業協会の仕組みは、日本で洋上風車が普及する上でのモデルケースになりそうだ。

漁業振興へ市が基金設立



風車群は現在稼働する1基の周辺海域に建てる

この初期段階に当たる計画段階環境配慮書を経済産業相に届け出た。総事業費は200億円超と見込まれる。

このほど五島市の五島ふくえ漁協、奈留町漁協など地元3漁協が計画に同意した。五島市は長崎県に海域使用料の減免や使用許可期限の延長などを求める一方、基金を作

売電収入や税を原資に

の初期段階に当たる計画段階環境配慮書を経済産業相に届け出た。総事業費は200億円超と見込まれる。

このほど五島市の五島ふくえ漁協、奈留町漁協など地元3漁協が計画に同意した。五島市は長崎県に海域使用料の減免や使用許可期限の延長などを求める一方、基金を作

り、漁業振興に役立てる。基金は戸田建設が風車稼働後の九州電力への売電収入の一部を拠出する。年間2000万円程度とみられる。市も風車の固定資産税が入ってくるため一定額を拠出、全体で数億円規模の基金を作る。この基金を3漁協の組合員の漁船の保険料や漁船の燃料代の一部に

あわせて漁場再生などの漁業振興策を採る。例えば、五島の各島の沿岸部では魚の産卵・育成の場となる藻場の消失が著しいため、藻場の再生を研究する案などが浮上している。

五島沖のウインドファームは風車をそれぞれ一基弱離して建てる。風車の下の構造物には魚が集まると見られるが、風車の下の海域は魚ができないなど、ウインドファームの漁業への影響は見極めが難しい。

日本は土地が狭いため陸上風車の適地が少な

く、山の尾根が複雑で乱流も発生しやすい。洋上風車は風の環境が良く、海域も広いが、漁業との協調が最大の課題。風車群の稼働で得られる資金の一部で基金を作り、漁業振興に使う五島方式が軌道に乗れば、他の海域にも応用できそうだ。

海洋エネ協力
長崎で意見交換
スコットランド関係

スコットランド政府のフィオナ・ヒスロップ文化・観光・対外関係相は16日、一年半ぶりに長崎を訪れ、海洋再生エネルギー分野で地元企業が作った長崎海洋産業クラスター形成推進協議会と意見交換した。記者会見したヒスロップ関係相は「海洋エネの商用化に向けて、18カ月で協力は大きく進んだ。今後も実務面での連携を深めていく」と強調した。

スコットランド国際開発庁は、2015年夏に同協議会のオフィスに海洋エネ分野などの事業支援施設「スコットランド・ハウス」を開設した。スコットランドの複数の企業と長崎の企業との協力交渉が続いている。

海洋エネ、企業連携深化を期待



スコットランドの交流活動の期待を語るヒスロップ大臣

来崎、関係者と交流

海洋再生可能エネルギーの先進地、英スコットランドのフィオナ・ヒスロップ文化・観光・対外関係大臣は16日、長崎市を訪れ、海洋エネ関係者と交流した。記者会見で「海洋資源をどう生かす、環境も守るかが大切」と述べ、本県とスコットランドの企業連携が深まることを期待した。

スコットランドは20年

まで域内電力の100%を再生可能エネルギーで賄う方針。一方、本県では潮流発電の実証事業などが進み、NPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会とスコットランドの企業との交流や商談も進んでいる。

ヒスロップ大臣は会見で「長崎との関係は非常に大切にしている。交流を通じて、大志、先見の明、決意を共有できる」と語った。

大臣は市役所で田上富久市長とも会談。19年ラグビーワールドカップ(W杯)日本大会に向け、スコットランド代表チームは同市での事前キャンプを決めており、ラグビーを通じて交流促進を確認した。17日は長崎大と県を訪問する。